



学校だより

2月号



平成29年 1月31日発行
さいたま市立本太小学校
Tel 048-882-3007
<http://motobuto-e.saitama-city.ed.jp>
e-mail motobuto-e@saitama-city.ed.jp

新しい教育の流れ ～中教審の答申から～

校長 井出 了一



一年生が元気に縄跳びをしている「ふれあいパーク」では、紅梅が濃いピンク色の花を見事に咲かせ、ふくよかな香りを漂わせています。2月に入って3日が節分、4日が立春。まだまだ寒い日が続きますが、春は着実に近づいているようです。

ところで先日、文科省から、次期学習指導要領に向けて「中央教育審議会」の答申が公表されました。この冒頭に「子供たちの現状と課題」として、現状分析が示されています。

- ・子供たちの学力については、国内外の学力調査の結果によれば近年改善傾向にある。子供たちの9割以上が学校生活を楽しいと感じ、保護者の8割は総合的に見て学校に満足している。こうした現状は、各学校において、学習指導要領等に基づく真摯な取組が重ねられてきたことの成果と考えられる。(本校の児童・保護者アンケートでも同様の結果が出ています)
- ・一方で、判断の根拠や理由を明確に示しながら自分の考えを述べることなどについては課題が指摘されている。学ぶことの楽しさや意義が実感できているかどうか、自分の判断や行動がよりよい社会づくりにつながるという意識を持てているかどうかという点では、肯定的な回答が国際的に見て相対的に低いことなども指摘されている。学ぶことと自分の人生や社会とのつながりを実感しながら、自らの能力を引き出し、学習したことを生活や社会の中の課題解決に生かしていくという面には課題がある。(以下省略)

こう分析した上で、第2章以下に新しい教育課程の方向性が示されています。後半の第8章では、『子供の学習活動や学校生活の基盤となるのが、日々の生活を共にする基礎的な集団である学級やホームルームであり、小・中・高等学校を通じた充実を図ることが重要である。』とされ、学習活動や学校生活の基盤となる学級経営の充実が求められています。

本校では、今年度から、教育課程「特別活動」の分野で研究を進め、学級づくりや話し合い活動の研修を進めております。対話や議論を通じて、自分の考えを根拠とともに伝えるとともに、他者の考えを理解し、自分の考えを広げ深めたり、集団としての考えを発展させたり、他者への思いやりを持って多様な人々と協働したりできる児童。変化の激しい社会の中でも、感性を豊かに働かせながら、よりよい人生や社会の在り方を考え、試行錯誤しながら問題を発見・解決し、新たな問題の発見・解決につなげていくことができる児童の育成に努めてまいります。

○ 寒い朝、「霜ばしら」に感激

朝のあいさつ運動の時、正門わきのパンジーの花壇で3センチほどもある立派な霜柱を見つけました。表面の土はカチカチに凍っていましたが、少し崩すと、その下にはキラキラ輝く霜の柱がありました。それでもパンジーは凍らずに綺麗な花を次々と咲かせています。これは土の中にしっかり根を張って、凍りついていない下の方から水を吸い上げているからでしょう。小さな植物ですが「生きる力」を感じました。子供たちは寒い朝ならではのキラキラを発見して楽しんでいます。

